



進路だより

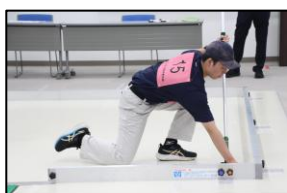
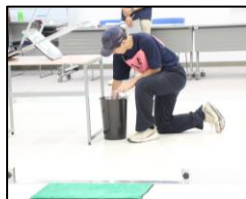
宮城県立支援学校小牛田高等学園

進路指導部

第4号 令和8年7月17日発行

報告 アビリンピックについて

7月11日（土）、ポリテクセンター宮城を会場に、第30回宮城県障害者技能競技大会（通称：アビリンピック2026）が開催されました。毎年、本校から複数名が参加している大会で、今年度は、ビルクリーニング、喫茶サービス、パソコンデータ入力、ワード・プロセッサ2に生徒5名が出場しました。喫茶サービス部門で3年長澤葉奈さんが金賞、ワード・プロセッサ2部門で1年佐藤健悟さんが銀賞を受賞し、長澤さんは12月に愛知県で開催される全国大会への出場が決定しました。日々の作業学習で練習した技能を発揮し、学習と就労のつながりを感じる貴重な機会となりました。



報告 企業向け学校見学会について

7月7日（火）から3日間、企業向けの学校見学会を行いました。宮城県各地から、企業が31社、福祉サービスが7事業所、合計61名の方々にご参加いただきました。ちなみに昨年度は39名でしたので、昨年度の1.5倍の方々に見学していただいたということになります。内容は①本校の紹介（学校概要、進路状況）、②3年生の作文発表（前期現場実習について）、③授業見学、④質疑応答 でした。生徒の授業の様子をたっぷり見ていただくのはもちろんのこと、暑い中での授業見学で疲れた企業の皆さんに、接客班の生徒がお茶を提供したり、最後は園芸班、食品加工班の生徒が商品販売を行いました。



質疑応答では進路指導に関する様々な質問があり、本校に対する強い興味を感じました。今後、進路指導部では実習や就労につなげていけるように、会社訪問を行っていく予定です。



案内 令和8年度 卒業生事例発表会について

毎年、後期現場実習前の9月下旬に、本校の卒業生から就労先の仕事内容や一日の流れ、普段の生活の様子などを話していただいております。また、企業や行政の方にも来校していただき、就労や自立などに関する講話をしていただく行事です。今年度は9月25日（金）の5、6校時に開催いたします。R5年度卒業生の2名、障害者就業・生活支援センターRoleの方に来校していただき、講話していただく予定です。生徒は、職業の時間に事前学習を行い、卒業生の就労先の会社を調べたり卒業生に聞きたい質問を考えたりと準備を整えてから当日に臨みます。さらに、保護者の皆様も参加可能です。卒業生の“生の声”を聞く貴重な機会です。夏休み明けに参加希望をお聞きますので、ご検討いただければと思います。

（写真は昨年度のものです。）



～今回のテーマ～ 「障害者職業センターとは？」

前回のテーマである「ハローワーク」でもお伝えした、障害者雇用促進法で定められた、3つの支援機関の3つ目が「障害者職業センター」です。（以下、職業センターと省略）

職業センターは基本的に各都道府県に1カ所ずつあり、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が職業センターを運営しています。（実はこの機構が表面で紹介しているアビリンピックを主催しています）

まず職業センターについて、学校との関わりを中心に説明します。職業センターはハローワークと連携して就労のサポートを行う機関で、客観的な評価→課題の整理→問題の解決やスキルアップ を促す役割を持っています。障害者就業・生活支援センターが「伴走者」であるのに対し、職業センターは「コーチ」と言えます。

本校との関わりが最も強い部分では、①「重度知的障害者判定」と②「ジョブコーチ」があります。

①はとても響きの強いネーミングなのですが、実は「知的な障害が重度」かどうかの問題ではなく、「働く上での障害が重度」かどうかを判定するものです。実際にいくつかの作業テストを行い、職業センターに評価をしてもらいますが、重度判定を受けた場合、障害者雇用ではダブルカウントになります。企業は法定雇用率（障害者雇用枠）をクリアする義務がありますので、1人雇用している状態でも2人雇用したとカウントできることは、企業にとって大きなメリットになることは間違いありません。また判定を受けた障害者の方にとっては、企業から十分な支援を受けやすいと考えることができます。本校においては、具体的には3年生の冬を目安に対象の生徒に学校から連絡をしますので、判定を受けることを家庭にてご相談ください。

②の正式名称は職場適応援助者です。ジョブコーチは障害者の方に対しては、職場の従業員の方との関わり方や、効率的な作業の進め方をアドバイスすることができ、企業に対しては、本人が力を発揮しやすい作業がどのようなものであるかの提案や、本人の特性をふまえた仕事の教え方をアドバイスすることができます。つまり職業センターは本人に対しても企業に対しても、上で述べたように「コーチ」としての役割を果たしていると言うことができます。

ジョブコーチに支援を依頼するかどうかは、基本的には企業の申し出からスタートし、3年生の就労前の移行支援会議の中で、この件について話題となるケースが多いようです。本校の卒業生でも就労開始とともにジョブコーチが支援に入り、本人にも企業にも適切なアドバイスがなされ、スムーズな定着に向かっているケースが実際にあります。

進路三者面談ありがとうございました。

7月7日～10日の進路三者面談で、前期現場実習の振り返りに加えて、後期現場実習や今後の進路希望に関するお話をさせていただきました。今後の実習も有意義なものとなるように、実習先の企業や学級担任と連携してまいりたいと思います。次回の進路三者面談は、11月下旬となります。引き続き、ご協力の程よろしく願いいたします。

